

黄金畳誕生

畳の常識を覆す存在感



黄綬褒章受章・現代の名工受賞の匠！

匠がその技と精魂込めて、
豊臣秀吉がいた桃山時代から
金の茶室を時空を超えて
タイムスリップさせた金の畳。
ぜひ、当社にお越しの上ご覧下さいませ。



販売先:株式会社 小田畳商会
住所:鹿児島県鹿児島市新屋敷町5-17
TEL:099-222-3224
FAX:099-222-3233
URL:http://www.tatami1.com

工業倶楽部

KAGOSHIMA INDUSTRIAL CLUB



- 鹿児島県工業倶楽部創立30周年記念式典
- 第10回「食と健康に関するシンポジウム」
- 私と工業倶楽部
- 新会員情報



CRM 導入しませんか 組織のDXや働き方改革を成し遂げるツール

顧客情報を統合管理し、顧客と長期関係を構築して製品やサービスを継続的に利用することで、企業収益を拡大していく手法です。(御社のCRMクラウドを7日でご準備いたします)



CRM 導入のメリットは？

担当を引き継ぐ際のロスを無くし、会社として一貫した対応が可能に。
正確な情報を共有することで顧客からの信頼度もUPします。

CORRECTPLAN CO.LTD
株式会社コレクトプラン
鹿児島市田上台 3-21-13
Tel : 099-265-6950
Mail : info@correctplan.com



公益社団法人

鹿児島県工業倶楽部創立30周年記念式典

◆日時/令和3年2月1日(月) ◆会場/城山ホテル鹿児島(エメラルドホール)

30周年を節目にさらなる発展を

2021年、公益社団法人鹿児島県工業倶楽部は創立30周年を迎えました。

これを記念して、2021年2月1日、鹿児島市・城山ホテル鹿児島のエメラルドホールで、30周年記念式典及び30周年記念事業の「第10回食と健康に関するシンポジウム」を開催しました。

記念式典には、鹿児島県工業倶楽部に関わりのある多くの方々にご参列いただき、お祝いと期待のお言葉を頂戴し、また、若手経営者プラザからはこれからの10年に向けた「未来への提言」が発表され、盛会のうちに終了しました。



鹿児島県知事 塩田康一氏



九州経済産業局長 米田健三氏



鹿児島大学学長 佐野輝氏

公益社団法人鹿児島県工業倶楽部の創立30周年記念式典には、コロナ対策を万全に準備した会場において、総勢107名が参加しました。

セレモニーでは、まず、1991年に「会員同士の交流、融合、創造への挑戦」を実現することを目的に設立された工業倶楽部の30年の歩みを振りかえるビデオが放映され、歴代会長、これまでの活発な活動が紹介され、今後も、引き続き「企業価値の向上」、「経営におけるイノベーション創造」、「パートナーシップで経営戦略を成功に導く」ことを宣言しました。

その後、鹿児島県知事、九州経済産業局長、鹿児島大学学長のご来賓から祝辞があり、工業倶楽部のイノベーション戦略に基づく経営、パートナーシップで企業価値を向上させる活動に期待の声が寄せられました。

主催者あいさつに立った岩元会長からは、異業種交流を主体とした設立目的だったが、時代に合った交流を続け、今後はDXなど時代の変化に先駆ける活動を展開し、地域の振興に貢献していきたいと語られました。

昨今の、米中貿易摩擦に代表される保護主義的な動きの台頭、地政学的なリスクの高まり、急激な気候変動や自然災害、非連続な技術革新、そして新型コロナウイルス感染症の世界的拡大など、経営環境はかつてない規模と速度で急変しつつあり、かつ極めて厳しい状況にあります。こうした環境下で取るべき戦略は、これらの変化に対応できる能力を企業が持つことです。

今後も、常に会員増強を進めながら、他団体とも連携を深め、AIやIoTなどデジタル技術を活用し、DXを推進し、大きく変化する経営環境や状況に対応できる企業の育成に貢献することが今後の工業倶楽部が目指す活動です。



変化に対応し、時代に柔軟に対応する企業活動を目指そう

公益社団法人鹿児島県工業倶楽部会長 岩元正孝

鹿児島県工業倶楽部は平成3年(1991年)の設立ですが、その前身として1983年高度技術工業集積地域開発促進法が施行され、その時の受け皿として鹿児島県の工業を統括する団体が必要となり、昭和58年、当時の鹿児島県工業振興課の働きかけで、「鹿児島県異業種交流協会」が設立され、ナンバー異業種交流会を毎年組織してまいりました。

昭和53年に「鹿児島県工業技術振興会」に改組、設立目的として鹿児島県内の製造業を中心とする業種業態等の相異なる企業が自主的に組織し、異業種交流、産学官連携を通じて経営基盤の強化、技術の高度化、新技術・新製品の開発等により新規事業分野の進出等を促進して、本県工業の健全な発展を図ることを目的として掲げました。

平成3年に社団法人化し、「社団法人鹿児島県工業倶楽部」として再出発します。この間、異業種交流、産学官連携をはじめとする様々な事業を実施し、中国江蘇省との交流、ラボツアー、逆ラボツアー、デザインフェア、ベンチャープラザ鹿児島二水会、国内国外視察を実施しました。また、平成17年に、鹿児島大学と工業倶楽部との包括連携協力協定を締結し、創立20周年を記念して、「食と健康に関するシンポジウム」を立ち上げました。

異業種交流を主体とした設立目的でしたが、時代に合った交流を続け、これからもこの地域の振興に貢献していきたいと考えます。時あたかも時代はDXの真っただ中でございます。このDXに関連いたしまして、会といたしましてその変化に先駆けて色々な活動をしていきたいという風に考えております。

おかげさまで30年を迎えることができました、改めて関係者の皆様に御礼申し上げます。また、濱田光彦様、本坊慶吉様、坂元昭夫様、川崎暢義様には、会長として会の運営にご貢献いただきました。また、歴代の事務局長様、事務局員の皆様にも、会員を代表して御礼申し上げます。ありがとうございました。

若手経営者プラザによる「未来への提言」

記念式典では、工業倶楽部の10年先、20年先、30年先を見据えた活動を継続していこうと、2018年に設立された「若手経営者プラザ」による「未来への提言」の発表が行われました。「ITを活用したパートナーシップで世の中をリードする～工業倶楽部総DX化を目指して～」と提案された発表は、同プラザ会長で株式会社中崎電子工業の中崎啓文代表取締役社長と、株式会社クラインベストの脇野真梨江代表取締役社長が軽妙なトークも交えながら行い、「YouTubeボタン」や「オンラインビジネスマッチング」などITを活用したビジネス変革、DXの推進をパワーポイントと動画で訴えました。時代にあったパートナーシップを追求し、時流に合った活発な組織に変化し続けようという、「若手経営者プラザ」の「未来への提言」に会場全体が共感し、大きな拍手のもと発表が終わりました。

今後、同プラザを中心に、パートナーシップやネットワークづくり、会員増強を目標にその具体化を目指します。さらに、業務を単にデジタル化させるだけではなく、ITを活用して、変化を「感知」、「捕捉」そしてビジネスを「変容」し、企業の「競争優位性」を高めるDXの推進も目指していきます。さらにまた、この提言を全会員で実現できるように、同プラザではITに苦手意識を持たれている会員へのITツールを使いこなすセミナー等の実施も検討しています。



左から、黒田 幾代(㈱ランドアート) 歌枕 歩(ACTA DESIGN WORKS) 小田 伸(㈱小田壘商会) 中崎 啓文(㈱中崎電子工業) 塩田 康一(鹿児島県知事) 脇野 真梨江(㈱クラインベスト) 田中 寛(㈱タナカサトル技術支援)

鹿児島県工業倶楽部創立30周年記念事業 第10回「食と健康に関するシンポジウム」



鹿児島県知事 塩田康一氏



鹿児島大学教授 堀内正久氏



筑波大学教授 磯田博子氏

鹿児島県工業倶楽部の創立30周年記念事業のひとつとして、鹿児島大学と共同主催で「第10回食と健康に関するシンポジウム」を城山ホテル鹿児島のエメラルドホールで約170名が参加し、コロナ対策を万全に準備した会場において、開催されました。

今回は第10回という節目を迎え、「鹿児島の重要な地域資源である食資源を活かし、持続的な成長に向けた未来への挑戦」をキーワードに、塩田康一鹿児島県知事と、堀内正久鹿児島大学教授及び磯田博子筑波大学教授のおふたりの専門家を迎え、コロナ禍でも成長できる食産業の可能性について議論を深めました。

塩田知事の「鹿児島の豊かな地域資源を活かした未来への挑戦」と題した基調講演では、南北600kmにわたる広大な県土を活かした、個性あふれる豊かな地域資源を機能性食品として活用するなどの高付加価値化への取り組み、スマート農業による生産性向上、マーケットインの発想による積極的な輸出展開、GAP認証やHACCPなどの食品の安全性の見える化に組み込み、競争力のある食品産業の創出を通じて「稼ぐ力」を向上する県の施策をダイナミックに展開し、本県の新たな未来を創造したいということが語られました。

続いて、堀内教授の「未来志向の給食システムの提案～食材連携で鹿児島の健康を創る」と題した講演では、時宜を得た、新型コロナウイルス感染症拡大に対抗する「免疫機能」の増進に係るビタミンの話題、また、産業医としての知見、経験に基づき、コロナ禍でも成長できる、コロナ禍だからこそ、実施可能な食産業を通じた健康増進システムとして、「高校給食」実現の提案がありました。

続いて、磯田教授の「食資源の高度利用で新産業育成を図る」と題した講演では、アルツハイマー病やうつ病等の治療することが困難な神経変性疾患に有用な成分が天然にあり、本県の特産物である種子島産ムラサキイモのアントシアニンや、サツマイモ茎葉利用品種「すいおう」に多く含有される「トリカフェオイルキナ酸」成分が神経新生促進効果があり、これを活かした先制医療の産業化、また、AI等も積極的に活用し食薬資源の新機能のメカニズム解明等を通じ、その高機能化・付加価値化で、先制医療の産業規模の拡大がさらに可能となるということが紹介されました。

「食と健康に関するシンポジウム」は早々に募集定員に達し、今後飛躍する新産業として「食」と「医療」が大きな期待を寄せられていることを実感しました。

工業倶楽部では今後も鹿児島大学と共に、全世代の国民に健康かつ幸福をサポートする社会実現のために取り組むべき課題や研究について、同シンポジウムを通じて提案してまいります。



私と工業倶楽部

みなぎる好奇心が今を創り、その経験を通して、新しいコトへ挑む日々！
鹿児島への想いや、工業倶楽部で出会い協力して下さった人々への感謝の気持ちなど、文字に表現できない程お話しいただきました。辛酸・苦悩・光明、涙とたくさんの汗。一層の飛躍・成長を期待いたします。



林建設株式会社
代表取締役 林 隆秀

〒890-0066鹿児島市真砂町2番11号
TEL:099-254-8612 FAX:099-254-8619
<http://hayashihd.co.jp>

林建設は、公共工事を中心とした総合建設業を事業主体として鹿児島県一円で活動をしています。平成元年「地球環境に貢献する企業活動の実践」という環境宣言をスローガンに掲げ、建設事業を通して地域社会の発展に寄与し、豊かな環境創造を経営理念としています。創業は1965（昭和40）年、旧大口市で父が林商會を個人起業し、その2年後林建設有限会社を創業、私が大口中学校1年生の時でした。私はその後鹿児島市内の高校を経て東京へ進学、経済学と建設工学を学び卒業後、植村組で現場監督として勤務後、林建設に入社。本年40年を迎えます。

●工業倶楽部入会で革新的なプロジェクトに挑戦できたことが大きな収穫

工業倶楽部を知ったのは、鹿児島県商工労働部の方に入会を勧められた時でした。それまでは地方の閉鎖的な建設業界しか知らず、今振り返ってみるとそれは歴史の中で、業界秩序を維持し、業界利益を守るという目的のためだったのかもしれませんが、同業他社に倣って業界の方針に沿っていかねばならないという一種の同調圧力の中で経営していかなければならないという硬直した価値観しか持たない私が、入会をきっかけに眼前の世界が広がりいろいろな挑戦が出来た事は大きな収穫でした。

工業倶楽部を通じて、新しい人脈ができ良き友人とも出会えました。当時は製造業関係の開発意欲旺盛な経営者が多く、私も大きな刺激を受け自然と開発意欲が身につき様々な特許、NETIS登録、実用新案計7件を取得しました。現在も昨年の国土交通省、生産性向上に関する革新的技術プロジェクト採択事業もA判定取得。特許申請中であり、今後ICT・AIに関する研究は大きな開発テーマになると確信しています。創業時は土木が専門だった当社も建築・舗装・管設備・特殊土木と営業種目も充実し、総合建設業として経営持続することができました。

関連会社もその間10社創業し、この6年間にM&Aによる事業譲渡、合併により現在、林建設他、ハヤシホールディングス・林運輸・ハヤシ商事・ハヤシエネルギーシステム・ジオマックス・社会福祉法人林の森（特別養護老人ホーム）を運営しています。

●異業種という「フィールド」と本業の「ホーム」を行き来し、経営者として自分を客観視する

●異業種という「フィールド」と本業の「ホーム」を行き来し、経営者として自分を客観視する

私は経営には絶対に変えてはいけぬもの、守るべきものと、絶えず変化するもの、挑戦するものとの二面性があり、それが自分に対する肯定と否定であると思います。この両面のバランスを取っていく事が重要だと思っています。そのために日常とかけ離れた異業種という「フィールド」と日頃生活する本業「ホーム」を行き来することで生じる「当たり前」への疑問や違和感を起点に、経営者としての自分を客観視していく事が重要であると実感しています。

●「人間のより良い生活空間」の視点で公共整備を

我社は技術工程や材料に特化したハード中心の取り組みをしてきましたが、これからは工業倶楽部会員として「人間のより良い生活空間」という視点に立った公共整備を支える企業」という姿勢を継続していきたいと願っています。



趣味の登山で、キリマンジャロに登頂

鹿児島県観光プロデューサー

伊牟田 均



この度個人入会させていただきました。国内海外で野村證券38年、定年で帰鹿し縁あり城山ホテル社長・会長8年、母校鹿児島大学監事4年半、昨年より現職。

コロナ禍でグローバルにも、そして鹿児島の基幹産業で視野が広い観光関連業界は未曾有の大変厳しい状況が続いています。インバウンドの鹿児島での消費額約400億円は蒸発しています。現在準備すべきことは、地元の観光素材・資源(自然、食、文化、歴史等々)を再発見し磨きをかけ、先ずは県民が県内で交流・旅し、少しでも地域の活性化につなげることが大事だと思います。子どもたちの教育・修学旅行も地域をもっと学ぶためにもそうありたいものです。

このコロナ禍の中、私は個人的にも女房や知人と紫尾温泉や種子島、屋久島、甌島、奄美大島、南大隅と泊りで旅行し、知らなかった新しい地域発見や貴重な体験をしました。そのうち夜は必ず明けます。その時は県外の方々、その先はインバウンドの方々にも鹿児島の磨きかけた素晴らしい魅力を紹介し、発信して鹿児島観光の復活・振興に結びつくことを確信しています。キーワードは、今は身近なマイクロツーリズム、中長期に鹿児島が持つウェルネス健康関連の発信だと思います。



フラワースペースM-24
西 真理子

私はフラワーデザイナーをしています。仕事内容はイベント等の会場装花とフラワーアレンジメント・生け花の指導です。

会場装花としてはこれまで「かごしまのタベ」や「東京ドーム・テンプルウェアフェスティバル」など東京の会場や、伝統工芸展でのアリーナを始め、空港、中央公民館など県内の様々な場所で、鹿児島をイメージしたデザインの花を生けさせて頂いて来ました。

昨年、装花の仕事は一線を退き、現在は同好会や、短大の授業で後進の育成に力を注いでいます。

今後もメッセージ性のある花/を目標にしていますが、フラワーデザインの世界から飛び出して、広く皆さまと交流させて頂く事で見識を深めたいと思っています。

どうぞ宜しくお願い致します。

NEW FACE

共に鹿児島の産業を興し
造っていきましょう。

鹿児島の産業の発展の
ために、新しい風を。

新会員紹介 コーナー

株式会社Bフロンティア
取締役 松屋 裕子



弊社は「美と健康を通し、世界に笑顔を届ける企業」というビジョンを掲げ、化粧品、サプリメント、ヘルシー食品の開発を行っております。

それらの小売、卸、海外輸出と共に直営のエステサロンにて、施術、食事指導も行っております。

弊社には、全国の美容サロン5,000名以上の指導を行っているファスティングの講師、薬剤師、看護師、エステティシャンなど、高い専門性を持ったスタッフが在籍しており、外面美容だけでなく、内面美容も重視したサービスを提供させて頂いております。

鹿児島県立短期大学教授
野村 俊郎



初めまして、県短の野村です。平成元年に県短に赴任して30年以上が過ぎました。伊敷のキャンパスは、1897年に設置された陸軍歩兵第45連隊の跡地を引き継いでいるため、深い緑に覆われ、四季折々の変化が楽しめます。そうした恵まれた環境で優秀な学生に囲まれ楽しく過ごしてきました。

自分の専門がインドネシアの自動車産業であるため、ゼミ生を中心に多数の学生をインドネシアに留学させてきました。現在は、昨年11月に県短の有志が地元の皆さんと設立した「かごしまフォーラム」を中心に地域活性化の取り組みを進めています。よろしくお願い致します。

(有)小田畜産代表取締役
小田 雄二郎様も新たにご加入いただきました。

株式会社コルテーヌ
取締役会長 黒木 京子



私は西真理子様のお誘いで、昨年9月に入会させて頂きました。何も分かりませんが、どうぞよろしくお願い致します。

なかなか行事に参加することができず申し訳なく思っております。長い目で見て頂き、必ず参加できるように努力いたします。

コルテーヌは今年で創業31年目に入りました。小さな8階建てのビルの1階でアロマと健康を中心にした雑貨ショップ、2階は有料のアロマスクール、5~8階は職業訓練を行っております。また愛育病院の中に患者様用のアロマサロンをさせて頂き、納屋通りの入口で自社アロマサロンを致しております。

予定通り5年前に息子に社長を後継し、現在は代表権のない会長に就任しております。と言いましても、まだまだ挑戦したいことが沢山あり、工業倶楽部の方々に学びを頂ければと思っています。趣味とは言えませんが肺を鍛える為に「吹き矢」をやっております。

南九州食品コンサルタント事務所
代表
川前 康博



食品衛生法改正にともなうHACCPの制度化は、「今まで問題はなかった」から「問題を回避するために気をつけていること」を「見える化」し、記録と検証と改善活動によって食品事故を未然に防ぐことがポイントとなります。しかし、食品の安全に対する“学び”は、昔なら徒弟制度の下でじっくりと修行する仕組みもありましたが現代ではそれもいきません。

そこで、現場の経験が豊富で専門的知識を持つ私と一緒にプランを構築し、第三者の目を通じた安全な食品を提供する取り組み(たとえば5S活動)を実施されることで、今までどおり「いいモノをつくる仕事」に専念していただきたいと思っております。

システム化することで事業所内の風通しが良くなり、取引先や顧客からの信頼の獲得、それにとともなう販路の維持・拡大、将来の事業継承にも役に立つこと間違いなしです。

受賞おめでとうございます!

今年度、会員企業の「マトヤ技研工業株式会社」様と会員の鮫島吉廣様が栄誉あるふたつの賞を受賞されました。謹んでお祝い申し上げます。

第53回(2020年度)MBC賞受賞

マトヤ技研工業株式会社
食肉処理における自動省力化機械の開発を通じて、畜産業を活性化。

第71回南日本文化賞受賞

鮫島吉廣氏(学術産業部門)
長年にわたる焼酎にまつわる歴史や文化の研究、人材育成等を通じて、焼酎の魅力を幅広く発信。

合同会社地域のちから
代表社員
増原 伸一



平成16年4月に来鹿以来、農林漁業金融公庫(当時)鹿児島銀行などで県初の商談会や国内外の販路開拓に皆さま方に多大なるご協力を賜りました。

鹿児島県の基幹産業を今まで以上に豊かにできる取り組みはないかと考えるなか、鹿児島大学のHACCPの人材育成講座を受講し合格しました。すでに取得している上級農業経営アドバイザーを含め、サプライチェーン全体の最適化と輸出を含めた会員様の企業体力向上に貢献できればとの思いで入会致しました。

是非、弊社のご活用をよろしくお願い致します。